

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 3 No 6

23号

平成7年 6月 1日

外来で気付いたこと3

院長

久しぶりに、“外来で気付いたこと3”として、最近感じたことを書いてみます。

5月に入ってから、咳の止らない風邪がはやり、喘息のこどもも多く見られています。時々、優しいはず(?)の僕が、怒ってしまうことがあります。心当たりのお母さんもいるはずです。一体どんなことが原因なのでしょう。

普通の風邪の時には、いつ連れて来なさいと言わないようにしています。理由は、治って診せに来て、別の風邪がうつっては困るからです。しかし喘息や気管支炎や熱が続く場合は、お薬が無くなる前に連れてきなさいと言って帰します。それを一度ならず二度までも守らず、病気の悪化を繰り返す場合は、怒ってしまいます。それは何故でしょう?。こどもが話を聞いて、その日に来るわけではないのです。お母さんしかできないのですが、良くなったというお母さんの勝手な判断や都合で、受診しない事にしてしまいます。一度目は注意ですが、二度目となると怒ってしまいます。こどもがかわいそうになるのです。本来、こどもを守るべき親が守ってやらなければ、誰が守るのでしょうか。病気に関しては、それがぼくたち開業医の責任であり仕事です。先に書いたように、どんな時でもつれて来いと言いません。そう言うのはこちらが、心配している時なのです。お互い

お知らせ

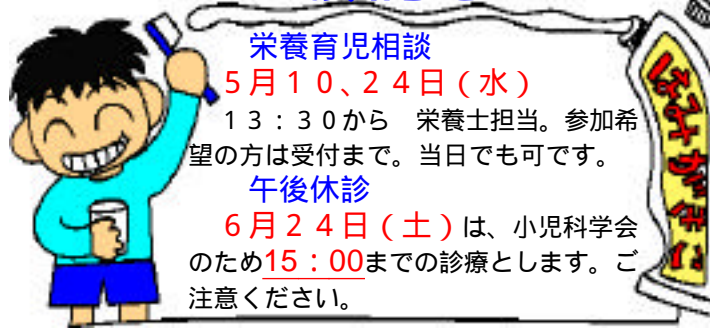
栄養育児相談

5月10、24日(水)

13:30から 栄養士担当。参加希望の方は受付まで。当日でも可です。

午後休診

6月24日(土)は、小児科学会のため15:00までの診療とします。ご注意ください。



の信頼のためにも約束は、守るように心掛けましょう。

また最近、薬の処方日数のことも考えてしまいます。当院では一般に3(～

4)日間の薬の処方をしています。はたしてこれは、長いのでしょうか短いのでしょうか。総合病院ではもっと長いかも知れませんが、開業医では2日の所も多いようです(場合によっては1日だけのこともあるようです)。こどもの病気のほとんどは急性疾患で、症状の変化も大人と比べると急激です。医院の立場や責任としては、病気の状況の把握や対応のために、お薬の処方2日が適当だと考えています。しかし2日の処方では、1日おきに来院しなければなりません。それではお母さん方も大変です。そんな理由で、お母さんたちを信じて処方を3日としているのです。しかしこれが逆効果のことが多くなり始めています。というのは、悪くなくても、薬を飲んでる安心感から、飲み終わるまで連れてこないことがあるのです。そんなことが多くなれば、薬の処方を短くするしかありません。それでは、困る人や場合が多くなってしまいます。

今回の二つの出来事は、全て信頼に関するものです。お互い信頼しなければ、良い医療もできず、病気の治癒も遅くなります。それで被害をこうむるのが、大人たちであれば仕方ありません。でも、こども達なのです。

今回の記事を機会に、信頼ということについて考えてみましょう。



読者の広場

最近、投書が多く集まります。ご協力有難うございます。なるべく多くの意見をのせるつもりですが、紙面の都合もありますのでご容赦お願い致します。

娘が突発性発疹にかかった。いやいやかかるとか思っていたし、あまり心配しない病気で友達に聞いていたので、甘く見ていた。娘は食べ物の飲み物も、グズグズと寝る前に吐いて、下痢もした。結局点滴のお世話になった。はじめての熱であつて病院に電話をしたのが、20時頃まで、時間外だったのでお母様も診察して下さるまで、泣きわめ娘に「お母さん、お母さん」とはげましてくださった看護婦さん。本当にありがとうございました。「明日は日曜日でお休みの日です。何かあったら連れてきていいわ。だいじょうぶだからお母さん」と先生に言われた時、心の底から安心して、気分が楽になりました。こどもいろんな病気にかかるとは思いますが、顔を見ただけで泣きわめいてあげれば娘で済む。こどももよくお願いします。宮城野区 中野のママ

サークルメンバー募集中

親子でするリズムダンスサークル(クラシックバレエ)ではメンバー募集中です。
日時 毎週金 会費3500円(親子で)
連絡先 293-6224 佐藤まで

募集中の他に... 直接的なご連絡は、直接ご連絡ください。明かに営利的なものをご遠慮ください。コミュニケーションを目的にした

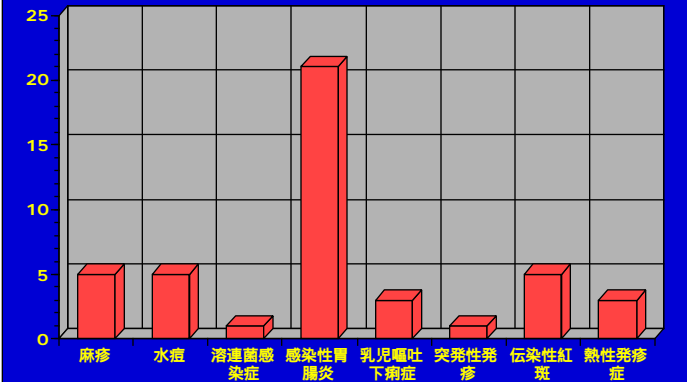
新刊 毎月お返し... 私にはNo1から... お忙しい中、制作はとて大変と思いきや、かみさん... 先生のお人柄、看護婦さん... かわむら先生が... おおすすめします! 軽率なお願い、いづれ山と谷... 先生にめぐりあふると... 今から不安に思っています... かわむら先生、いつもありがとうございます。(ママのママ)

病気ひとくち知識

溶連菌感染症

原因は、A群 溶血性連鎖球菌で、潜伏期は2~5日とされる。ピークは4~6歳で、10月~3月、初夏に見られることが多い。飛沫により感染し、咽頭炎が多く見られる。症状は、38 以上と咽頭痛で、1~2日で紅斑が出現(頬部、そけい部~全身)し、3~4日にいちご舌が見られ、約1週間後に指先から皮がむけることもある。猩紅熱と同じだが、法定伝染病のため溶連菌感染症とされることが多い。中耳炎などの合併症があるが、腎炎やリウマチ熱の原因として重要である。抗生物質で、比較的簡単に治癒するが、腎炎リウマチ熱の予防のため、10~14日の服用が必要である。咽頭炎のほかには、膿痂疹(とびひ)、リンパ節炎、膿炎、中耳炎などが見られる。

5月の感染症の集計



麻疹は少なくなっているようですが、最近また目立ち始めています。何度も言うように、予防接種のすんでいない人は早目にしましょう。水痘がやや増加し、伝染性紅斑(りんご病)も見られています。

しかし、喘息や、気管支炎肺炎が多かったため、点滴や入院の児を含め、今年一番の混雑でした。待ち時間が長くて申し訳ありませんでした。

お知らせ

東北放送ラジオ放送について

前号でも話しましたが、東北放送朝7:00歌のない歌謡曲の中で、電話でインタビューしています。毎月第一月~金までしばらく続く予定です。興味のある方はどうぞ。

他の投書について

夕方4時以降のテレビ放映について。現在番組内容を検討していますもう少しおまちください。点滴場所について。場所の問題はあると思いますが、現状では限界です。点滴を受ける児は、比較的重症です。重症の児をを優先することが必要だと思います。

編集後記

ともかく、忙しい5月でした。そのため(言い訳ですが)新聞が遅れてしまいました。お父さんから投書頂きました。“きららのパパさん”どうもありがとう。



目次に戻る

前の号

次の号